

平成24年度学力向上に向けた取組

函館市立 五 稜 中学校 学級数 6

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標
自ら考え表現できる生徒の育成

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見通しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

- 1 取組のきっかけ**
昨年度、学年団での取り組みとして、1年間毎日『家庭学習ノート』の全員提出の取り組みを行った。1年間取り組んできた中で、毎日の積み重ねが生徒一人一人に確実に基礎的な学力の定着が見られた。また、英語・数学における少人数指導との相乗効果も見られた。
- 2 取組の方法**
学年団での取組で大きな成果が見られたので、家庭学習ノートの毎日の提出を全校体制で取り組むことにした。
 - 『家庭学習のすすめ』を配付し、家庭学習の重要性、仕方について学級指導
 - 全校生徒に2冊ずつ家庭学習用ノートを配付
 - 毎日ノートを提出させる
 - ノートの点検は学年団で対応する
 - 点検したノートは当日、または翌日に生徒へ返却する
 - ※ 翌日に返却する場合、もう1冊のノートに家庭学習をし、提出させる
 - 学習内容は自主的に考えさせる
 - 部活、塾などで家庭学習ができなかった場合は、ノートに理由を書かせ、提出させるまた、今年度も引き続き、T T、習熟度別少人数指導を取り入れ、定着に努めている。

取組の成果と課題等

- **取組の成果**
 - ・ 家庭学習ノートを毎日提出させる取り組みを行ってきた
(成果) → 昨年度から引き続き行った2年生、入学後すぐに取り組んだ1年生については毎日『提出しなければいけないもの』という意識が強く、しっかりと定着した。その結果特に下位層の生徒の基礎的な学力の向上が見られた。また、テストに向けての学習時間も以前に比べ長くなり、学習に向かう姿勢の向上が見られた。
 - ・ T T、習熟度別少人数指導の実施
(成果) → 家庭学習ノートの提出同様、下位層の生徒の向上がよく見られた。授業の中でわからないところも2人の教師がいることにより、または少人数での授業であるということにより、積極的に質問をすることができ、その授業の中でつまずきや疑問を解消することができているようである。
- **教育課程検証の方法**
 - ・ 12月末に『教育活動に関するアンケート』を生徒・保護者に実施した。そのアンケートの中で『家庭学習の習慣の定着』についてという項目を入れた。その結果、生徒・保護者共に「定着してきた」「ほぼ定着してきた」という結果があわせて7割を越えた。さらに向上を目指したい。
 - ・ 生徒・保護者アンケートおよび、学校評価の結果を踏まえ、次年度は提出だけではなく、各生徒の家庭学習の内容の充実を目指して準備委員会・教務・学年団で検討しながら家庭学習に対する取り組みを進めていく。